



競争優位性確立に資する 生成AIの活用戦略について

2024年7月11日

株式会社ACES

自己紹介

SELF INTRODUCTION



與島 仙太郎

株式会社ACES
取締役/COO

2019年東京大学工学系研究科システム創成学専攻修了。
2017年、大学院在学中にACESを共同創業。
取締役としてDXパートナーサービス事業の統括を務める。

DXパートナーサービスでは
各社のDX推進・AI活用を伴走型で支援しており、
三井住友銀行、SOMPO HD、大同生命、DBJ、経済産業
省をはじめ、多くのエンタープライズへの支援実績を持つ。

会社概要

COMPANY

AI研究と社会実装をリードする東大松尾研発AIスタートアップ。 大手企業や中央官公庁など取引実績及び受賞実績多数

会社名	株式会社ACES（エーシーズ）
設立	2017年11月20日
資本金	1億円
従業員	110名（業務委託・インターンを含む）
事業	独自AIアルゴリズムを用いた ① DXパートナー事業 ② AIソフトウェア事業
受賞歴 （一部）	• HONGO AI AWARD • 東洋経済新報社「すごいベンチャー100」 • Forbes 30 Under 30 Asia 2022 Enterprise Technology部門

経営陣	田村 浩一郎
	代表取締役・Co-Founder  松尾研究室 MATSUO LAB THE UNIVERSITY OF TOKYO 東京大学大学院工学系研究科卒（工学博士）。松尾研究室 で金融工学における深層学習の研究に従事。Forbes 30 Under 30 Asia 2022 Enterprise Technology部門に選出。



	松尾 豊
	技術顧問  松尾研究室 MATSUO LAB THE UNIVERSITY OF TOKYO 東京大学大学院工学系研究科 人工物工学研究センター / 技術経営戦略学専攻 教授 他

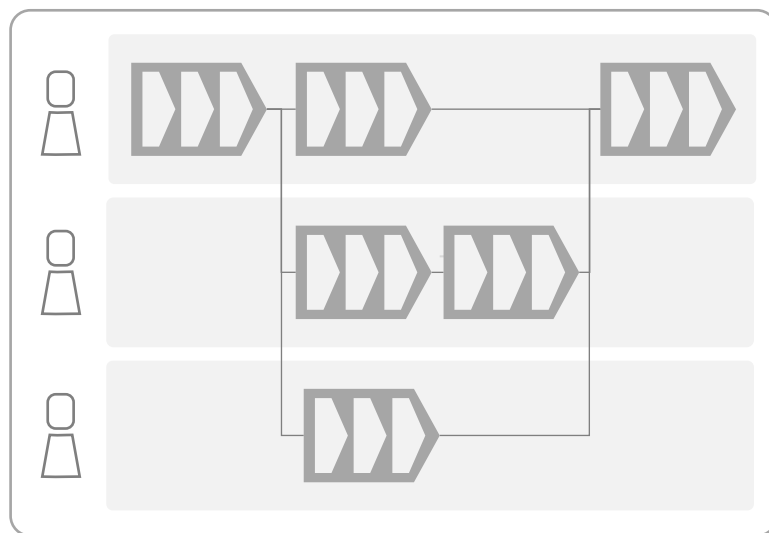


取引実績 （一部）	三井住友銀行、SOMPOホールディングス株式会社、株式会社電通、株式 会社テレビ朝日、バンダイナムコホールディングス株式会社、株式会社日 本政策投資銀行、大同生命保険株式会社、経済産業省、陸上自衛隊、その 他多数
--------------	---

事業概要

BUSINESS

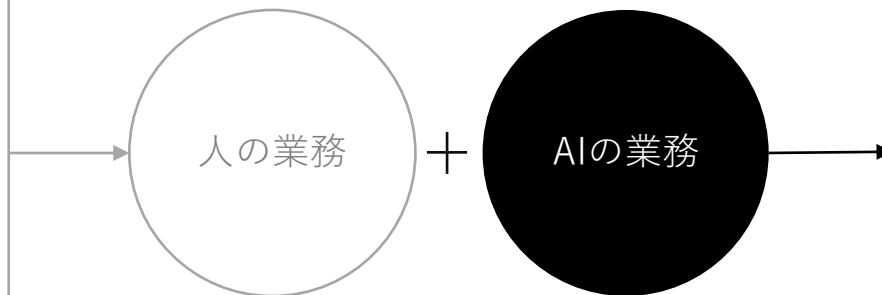
ACESは、人とAIが協働する次世代のビジネスプロセスを構築。
企業内の情報処理を伴う業務の生産性を向上させ、DXの実現を支援



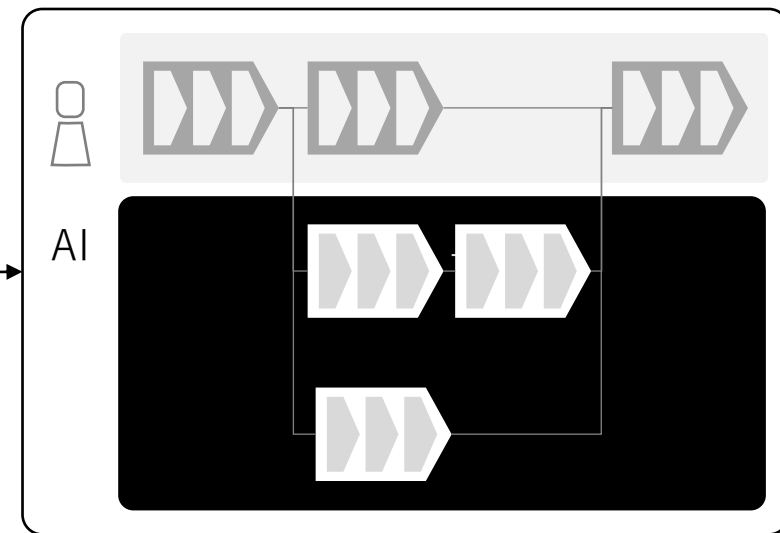
今まで

属人的で複雑・非効率な
ビジネスプロセス

ACES



滞りなく・24/365・低コスト



これから

人とAIが協働する
ビジネスプロセス

ACESの特徴 AIモジュール構造

独自レイヤーでのAIモジュール蓄積・組み合わせにより、個別課題ごとに大量のデータや開発工数を必要としないセミオーダーでの対応が可能

顧客ごとの課題

DXパートナー
選手能力強化



DXパートナー
労務安全管理



AIソフトウェア
商談力向上



and more...

アルゴリズムの
新しい組み合わせ

ACESの AIモジュール

顧客・製品特化AI

特定の顧客や製品に合わせて、特化した情報処理を行う
例) SFDCへの自動入力

業界・業務AI

(汎用的な)業務やシステムに合わせて、予測や指示などを生成・出力する
例) 商談スキルの改善

知識・知見AI

プロの経験や知見に基づき、価値のある形式でデータを構造化する
例) コミュニケーション力評価

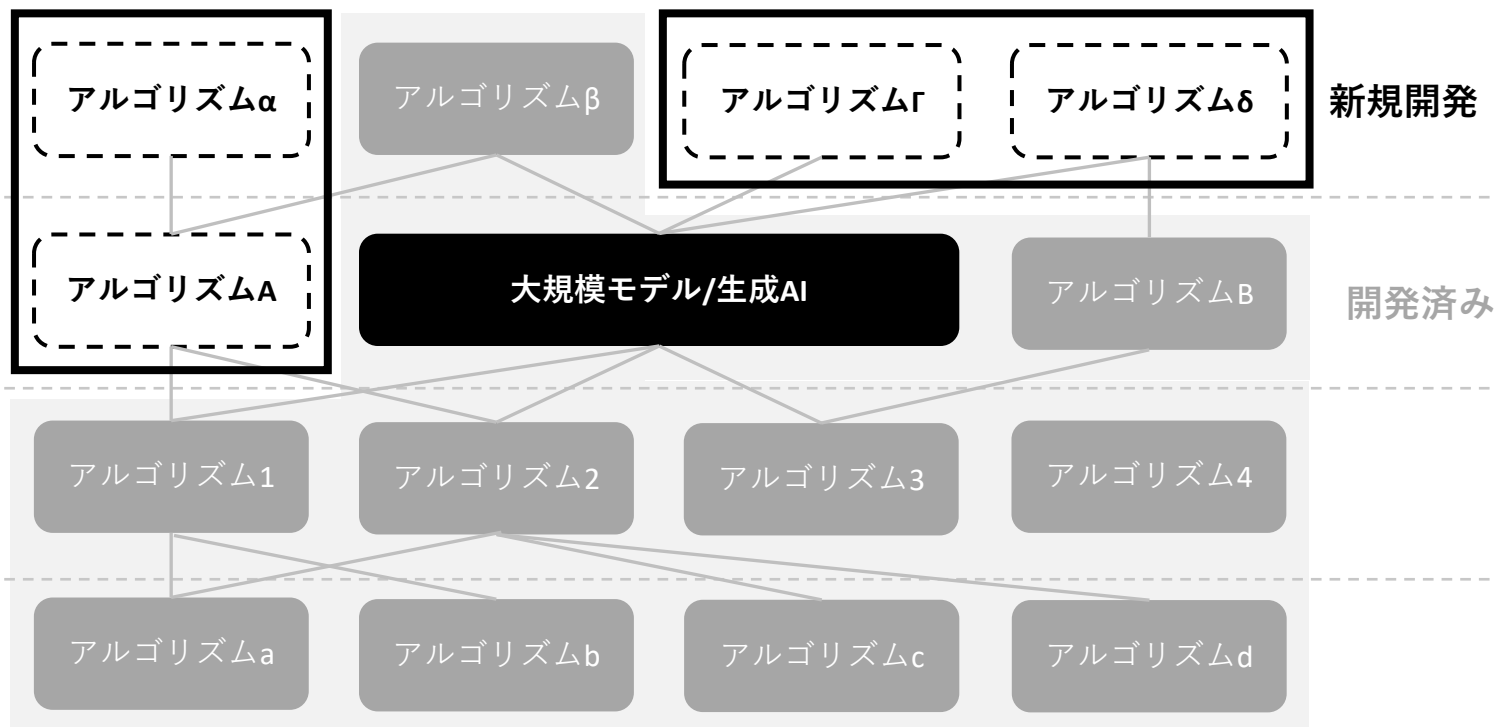
基礎認知AI

パターン認識を行い、データを整形・加工・保存する
例) 物体検出・音声認識

生成・出力

分析・評価

認識・計測



取引実績

各産業のリーディングカンパニーとAI導入を起点としたDXにより中長期的に
事業推進に関するご支援をご提供

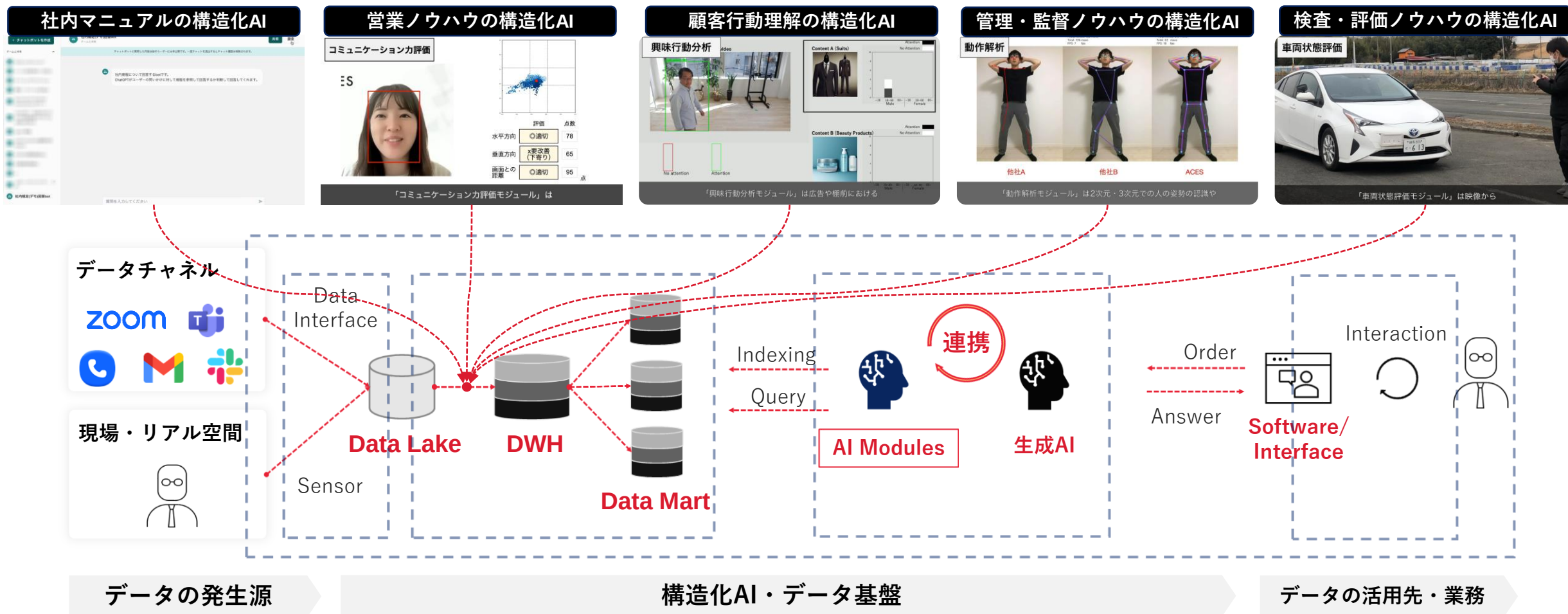


※取引実績がある企業の一部を抜粋してご紹介

ACESの技術領域

TECHNOLOGY

顧客の一次情報や業務の進め方などバラバラに存在していたノウハウに対して、
非構造化データをビジネス価値に変える「非構造化データ・AI統合基盤」



【AI活用事例】顧客接点のデジタル化によるSCM最適化

熟練販売員の知見をAIで再現し、顧客接点からデジタル化。顧客の解像度を上げサプライチェーン全体にデータを共有することで、サプライチェーン全体を最適化

パーソナライズされた接客プロセスを実現

Zoff

報道関係者各位
PRESS RELEASE / 2020年8月19日

研究・開発機関「Zoff Eye Performance Studio」始動！
メガネブランド「Zoff」×東大発スタートアップ「ACES」が業務提携
AIによってメガネの可能性を拡張する
Zoffが始める「視力矯正器具に留まらない」アイウェア革命



スマートフォンで撮影

似合うメガネをおすすめする
2つの推定技術

エキスパート店員でも
言語化が難しい感性評価を用いたAI
エキスパート店員が評価した数値データを活用し、最適なメガネを推薦。人が認識・意識していなかった特徴も認識することが可能。

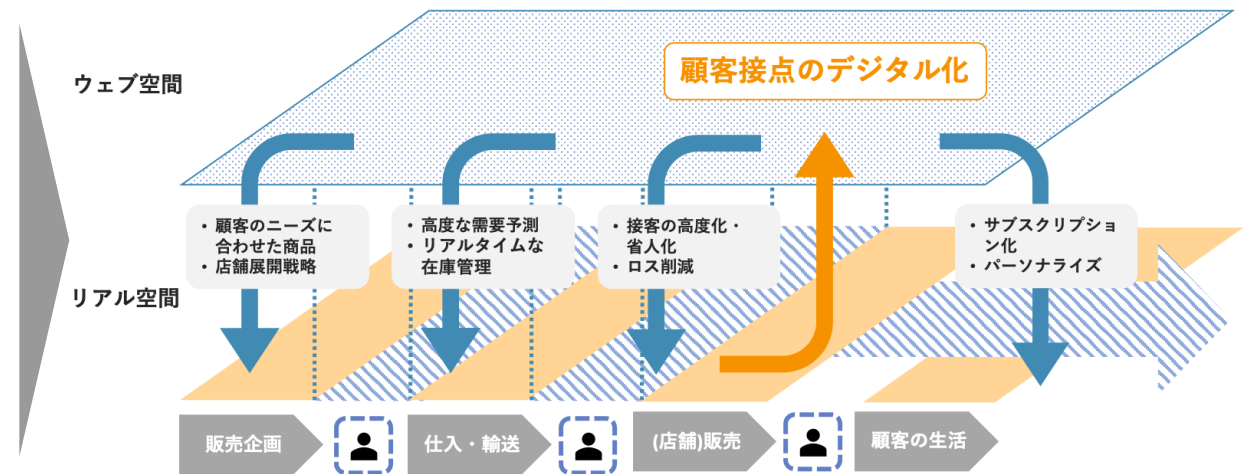
エキスパート店員の
言語化されている判断基準を用いたAI
エキスパート店員の着眼点を自動認識し、最適なメガネを推薦。隠タイプ等、言語化されている判断基準を取り入れた推薦を行うことが可能。



最適なメガネを推薦

熟練の販売員の接客スキルを再現するために、来店者の生活や嗜好と熟練販売員の接客手法を数値化し、購入検討時に熟練の販売員によるアドバイスを提供するアルゴリズムを開発

顧客データに基づきサプライチェーンを最適化



アルゴリズム・データのデジタル空間とリアルを接続することで、今まで離散的だったサプライチェーンを連続的につなげ、顧客価値の最大化、経営効率の向上を目指す

【AI活用事例】 評価・検査のデジタル化によるビジネスプロセス変革

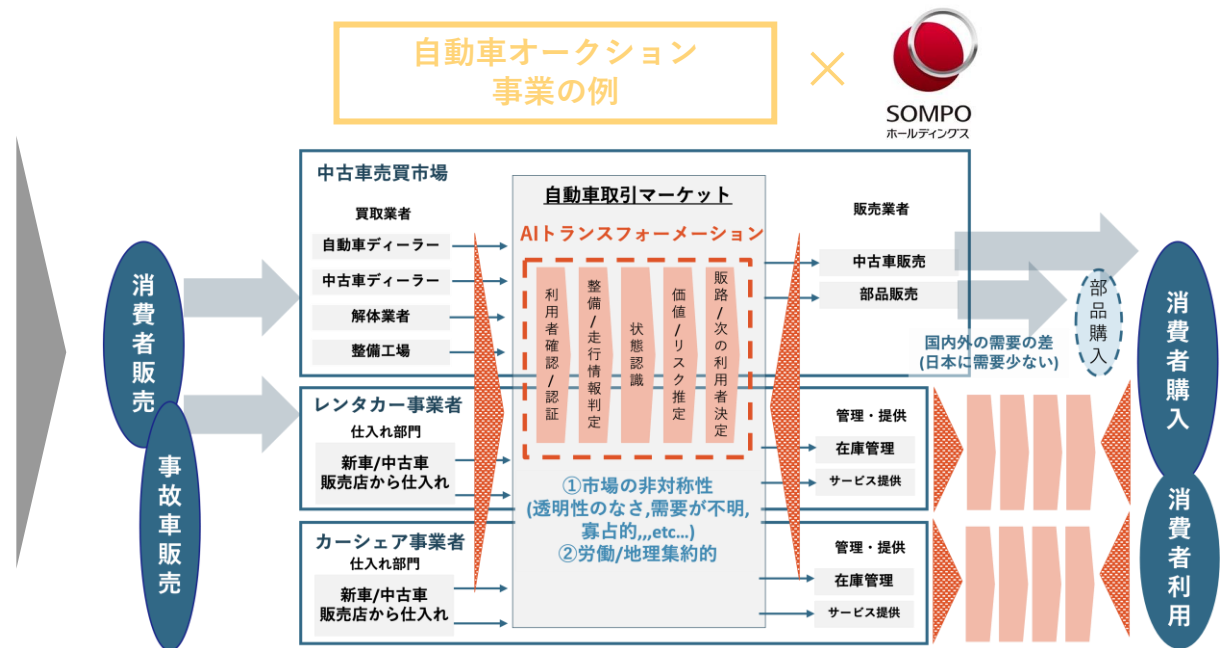
事故車/中古車のB2Bオークションの流通上のボトルネックとなる「検査員の目視による車両査定」の工程をAIによりデジタル化。リードタイムを圧縮し市場流通性を活性化

事故車/中古車の査定のビジネスプロセスを構築



事故車/中古車の状態や価値を損傷画像認識AIなどを用いて判定。地理的制約や属人的な知見に依存せず、ヒトとAIが協働する業務生産性が高いビジネスプロセスに変革

事故車/中古車のB2Bオークション事業の流通を加速



事故車/中古車の状態や価値を損傷画像認識AIなどを用いて判定し、事故車/中古車のB2Bオートオークション事業を推進

【AI活用事例】 営業トレーニングAIによる営業コミュニケーション力強化

営業スキルや商談内容に関して、音声・発言内容・映像などを総合的にAIで解析。成約率の改善や営業勝ちパターン構築を実現

営業DXを大同生命様と取り組み



大同生命 執行役員営業企画部長・岩谷崇志氏(左)とACES代表取締役の田村浩一郎氏
引用:「[中小企業に信頼されるパートナー](#)」を目指す 大同生命のDXをACESのAI技術がサポート!

ロープレや商談をAIで解析。売れる営業スキルを再現

営業基礎トレーニングプログラム / 商談における営業職員の振る舞い

ロープレ分析レポート

ロープレ実施者: 01 古川愛

ロープレ実施日: 2022/11/15

レポートの使い方・学び方

- ✓ このレポートは、みなさんが、Zoomを使った営業活動を、より効率的にスキルアップできるようサポートすることを目的としています
- ✓ 6つの評価項目について、今回のロープレを振り返り、次回実施するロープレでは「改善ポイント」を意識してのぞんでみてください。

総合評価	1. 顔の位置 (映り方)	2. 目線の分布	3. 笑顔の比率
	○標準	◎適切	◎適切
	4. 抑揚	5. 会話のラリー(行き来)	6. 相槌数
	○標準	◎適切	◎適切

1. 顔の位置 (映り方)

顔位置が画面の中央 (水平・垂直方向) で、画面と適切な距離を確認します

	評価	点数	顔の位置 (映り方)				
			目標	今回	前回差	前回	前々回
	水平方向	◎適切	78	0.0	0.0	--	--
	垂直方向	×要改善 (下寄り)	65	0.1	0.1	--	--
	画面との距離	◎適切	95	0.4	0.1	--	--

改善ポイント 顔の位置 (水平方向) は適切です。顔の位置 (垂直方向) が下側に寄っています、顔を少し上に向けてみましょう。画面との距離は適切です。

※1 目標値: 営業職員40名程度をサンプルとして、上位25%の方の値を、目標値に設定しています

※2 参考値: 各評価項目の目標値は、生命保険業界におけるトップセールスの商談サンプルを元に算出しています

2. 目線の分布

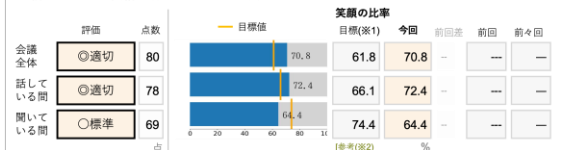
お客さまとアイコンタクトが取れているかを確認します



改善ポイント 相手の目を見て話しています。

3. 笑顔の比率

親しみやすい表情を作れているかを確認します



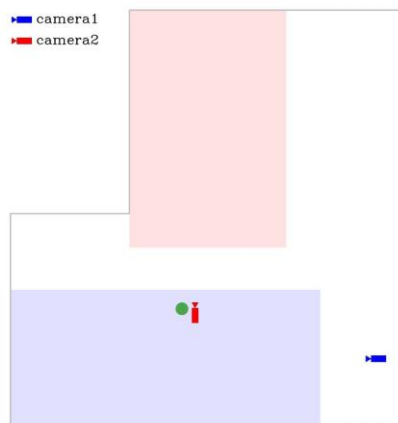
改善ポイント 親しみやすい雰囲気が作れるよう、商品説明時やお客さまのニーズをお伺いする際は、笑顔を増やすようにしましょう

引用: [AIによる「見える化」で、中小企業の経営課題を解決](#)

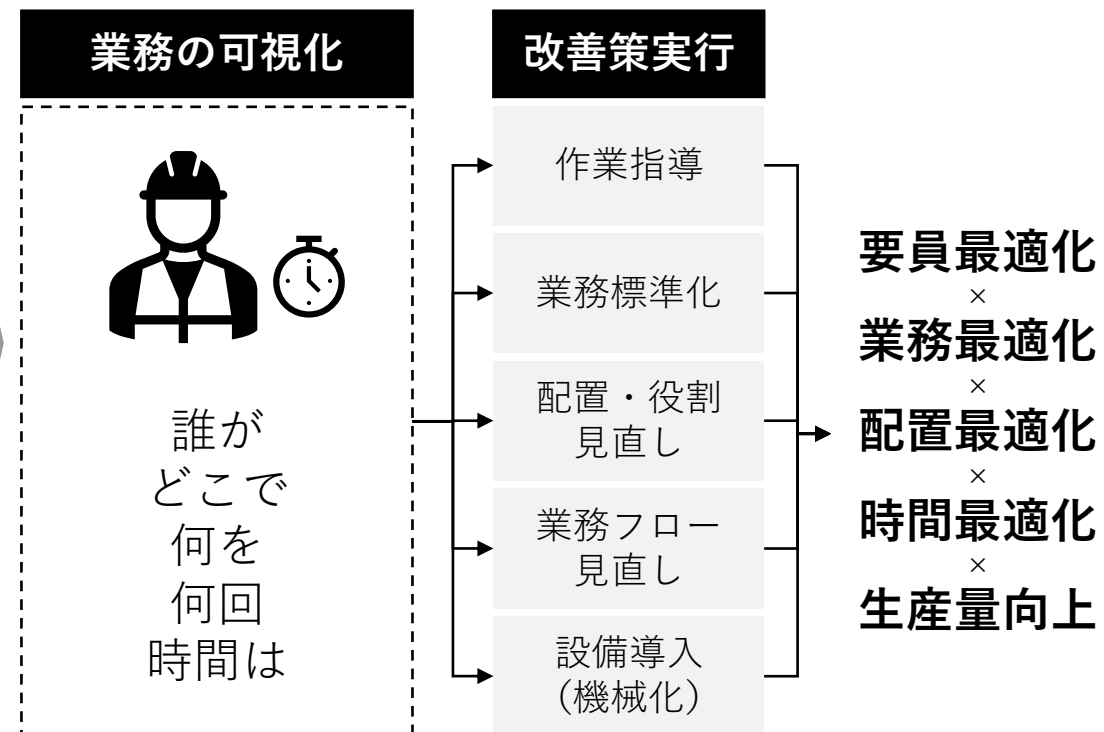
【AI活用事例】 施設内の稼働状況可視化による労働生産性の最大化

行動認識技術やビーコンを用いたID・位置特定技術を活用し、「誰が」「いつ」「どこで」「作業を実施したか/していないか」などを特定。実態に合わせて最適化を図りコスト・生産性の効率改善

複数カメラ間で個人別にトラッキング・位置特定・時間計測



実態の業務状況に合わせた最適化対応により原価低減



【AI活用事例】 需要予測AIによる在庫回転率アップ通じた経営改善

タイトル・作家・人気に連動する直近の売上動向など、定量化が難しい要素も数理アルゴリズム化。需要予測AIにより不稼働在庫の早期返品と補充発注数の最適化を通じて機会損失を抑制しキャッシュフロー改善

株式会社今井書店 AIによる仕入・返品システムで在庫最適化 書店MDシステム「BOOKS-TECH.COM」本稼働

デジタル ニュース 出版 | ACES, AI, BOOKS-TECH.COM, 今井書店, 仕入, 光和コンピューター, 返品
2024年5月29日



AI事業会社の株式会社ACESと株式会社光和コンピューターは、AIによって返品と補充仕入をサポートする書店MDシステム「BOOKS-TECH.COM」を共同開発し、山陰地方で書店を展開する株式会社今井書店の店舗で実運用を開始。補充仕入の実証実験では商品消化率が70%を超え非導入店を大きく上回るなど効果を発揮している。

個店別に最適在庫を分析

ACESは2017年に創業した東大発スタートアップ企業で、DXパートナーサービス、AIソフトウェアサービスを提供する。

「BOOKS-TECH.COM」は昨年8月から今井書店学園通り店（島根県松江市）で実証実験を開始。今年3月まで検証を行い、4月から全14店舗でまず返品から稼働を開始した。

返品は、光和コンピューターのPOSシステムと連携し、入荷・在庫・販売などのデータから店舗ごとの最適な在庫を割り出し、優先順位を付けた不稼働在庫のリストに沿って返品する。

これまでの返品作業は、全国的な不稼働リストなどをもとに、入荷した新刊のスペースを空けるために必要な冊数を抜き取っていたが、システム導入によって各店別にリスト化された不稼働在庫銘柄を抜き取る形になった。

「スペースを空けるための作業から、リストの本を抜きに行かなくなっただけで、当初は作業が増えると現場から反発もありましたが、この取り組みは省力化ではなく在庫を最適化することが目的です。結果として返品量が減り、作業も楽になります」と今井書店の舟木徹社長はシステム導入の目的を話す。

AI推奨で消化率72%に

不稼働在庫の返品とともに、補充注文にもAIを活用することで、さらに在庫を最適化し、回転率を向上することで売上拡大を図る。

同じチェーンの店舗でも、規模や立地などによって売れる商品は違う。「BOOKS-TECH.COM」では、返品と同様に個店別の販売傾向を分析し、何冊仕入れれば売り上げが最大化するのか補充注文すべき冊数を提示してスタッフの判断で発注する。

まずコミックスの2巻目以降とビジネス書、文庫、新書など主要銘柄で稼働。実験でAIが仕入冊数を推奨した銘柄については、半年間での消化率が72%に達し、未稼働店の50%を大きく上回った。

システム運用は、コミックスの継続仕入については本部から各店舗に需要予測を提供し、補充発注は店舗ごとに返品システムと連動して順次稼働している。

本部、店舗ともに「BOOKS-TECH.COM」の画面で推奨返品分析、推奨入荷分析などを確認することができるので、システムが提案する優先度や推奨を見ながら店舗で判断することも可能だ。

（出典） <https://www.bunkanews.jp/article/381490/>

生成AI活用に関するご支援事例のご紹介

ACES 生成AI活用に関するご協業事例 一部紹介

個別ユースケースにおいては、自社データ参照だけでなく、生成AIの特長・特性と社内ナレッジを連携させることでの業務品質向上・生産性向上を支援

大分類	事業内容	内容ご説明	協業企業
コールセンターDX	応対サポート	- 生成AIを活用した用件把握の補助・代替 - 用件把握後の回答検索システムの導入	大手金融機関
	応対後記録自動化	- 生成AIを用いた応対ログの要約 - セキュリティマスキングを活用した応対履歴のセキュアな分析・活用の実現	- 大手金融機関 - 大手損害保険会社
自社データ参照ヘルプデスク	社内規程ヘルプデスク	社内規程に関する生成AIを用いた社内ヘルプデスク機能の実現	- 大手金融機関 - ITソリューション - 製造業
	マニュアル参照による技術対応の最適化	生成AIを用いた製品マニュアル参照によるトラブル対応のスピード向上	警備関連業界
非構造データの構造化	システム開発設計ドキュメント対応表作成による照査業務サポート	システム開発設計ドキュメントに関する上下階層の対応表を生成AIを用いて作成することでの照査業務の効率化	ITソリューション
	非構造データ整形による業績管理・ESG経営推進	多種多様なレイアウト・表記・入力方法のある非構造データを生成AI用いてデータクレンジング・名寄せすることでの事業の詳細把握	クリエイティブ

ACESと経済産業省が行政における大規模言語モデル活用に向けた協同プロジェクトを実施

ChatGPTをセキュアに利活用できるACES ChatHubを提供

株式会社ACES

🕒 2023年10月13日 11時00分



リアル産業のDXを目指す東大松尾研究のAIスタートアップである株式会社ACES（東京都文京区、代表取締役 田村 浩一郎、以下「ACES」）は、経済産業省と行政における大規模言語モデル活用に向けた協同プロジェクトを実施しました。また、ChatGPTをセキュアに利活用できる「ACES ChatHub」の試験提供を行いました。

ACESと経済産業省が行政における大規模言語モデル 活用に向けた協同プロジェクトを実施



昨今、米OpenAI社が開発した「ChatGPT」を筆頭に、大規模なテキストを学習した生成系AIモデルである大規模言語モデル（以下、LLM）の活用が様々な産業領域で進んでいます。LLMは、従来のAIでは困難だった文章生成、機械翻訳、質問応答、対話をはじめとする言語生成を可能にすることから、行政領域においても事務タスクの高度化や生産性の向上といった可能性を秘めている一方で、機密情報の取り扱いという点で慎重な利用が求められます。

経済産業省は、省内のDXを進めるにあたって、文書や手続きを単に電子化するだけではなく、ITを徹底的に活用することで、手続きを簡単・便利にし蓄積されたデータを政策立案に役立て、国民と行政、双方の生産性を抜本的に向上するデータ駆動型行政への転換を目指しています。その上で、生成AIについては、省内の様々な業務改革の観点から職員にとって将来有効な補助ツールとなりうると捉えており、セキュリティ等の課題も含めた政府全体での検討を踏まえ、どのような活用の可能性があるのか、機密情報の取扱い等に配慮しながら検証することとしています。

そこで、ACESと経済産業省は、行政事務の高度化に資する技術導入可能性について検証するプロジェクトを実施しました。その中でACESは、LLM利用環境基盤をMicrosoft Azure上に構築し、ChatGPTなど生成AIをセキュアな環境でご利用いただける法人向けチャットボットAIプラットフォーム「ACES ChatHub」の試験提供も併せて行いました。

■今後の展望

ACESでは、生成AIの利活用推進に向けて官公庁や公共領域へのサービス提供を強化しており、この度経済産業省との協同プロジェクト実施に至りました。今後も引き続き幅広い産業領域でのDXに貢献してまいります。

■ACES ChatHubについて

ACES ChatHubは社内のプライベートデータとChatGPTをセキュアに連携しながら、自社特化のチャットボットを作成いただくためのチャットボットAIプラットフォームです。

詳細については下記サービスサイトをご覧ください。

▼サービスサイト：<https://acesinc.co.jp/lp/chathub>

■株式会社ACES 会社概要

東京大学松尾研究のAIスタートアップである株式会社ACESは、Deep Learningでリアルな情報・知見の取り扱いを可能にし、大規模モデルや独自AIモジュールを組み合わせ、AIとヒトが協働するデジタル事業を開発・展開しています。AIアルゴリズムを事業価値に落とし込むデザイン力をコアコンピタンスとして、クライアント様と二人三脚でDXに取り組むDXパートナー事業、自社アルゴリズムを組み込んだソフトウェアを提供するAIソフトウェア事業を提供しております。

代表者：代表取締役 田村 浩一郎

所在地：東京都文京区湯島2丁目3-14 ファーストジェネシスビル3階

設立：2017年

事業内容：DXパートナー事業、AIソフトウェア事業

コーポレートサイト：<https://acesinc.co.jp>

ACES Meetサービスサイト：<https://meet.acesinc.co.jp/>

採用サイト：<https://acesinc.co.jp/recruit.html>

お問合せ先：info@acesinc.co.jp

(出典) <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000073.000044470.html>

(参考)生成AIを活用した行動認識技術に関する特許取得済(2024/2/13プレスリリース)

ルールベースでは検出が難しい行動も、検出したい行動と関連するプロンプトを与えることで少量のデータから汎用的な行動検出を可能にする行動検知技術の特許を取得済み

AIアルゴリズムの力でリアル産業のDXを目指す東大松尾開発のAIスタートアップである株式会社 ACES (東京都文京区、代表取締役 田村 浩一郎、以下「ACES」) は、大規模モデルを用いた行動検知技術に関する特許を取得しましたのでお知らせいたします。本技術は、検出したい行動と関連するテキスト(プロンプト)を与えることで汎用的な行動検出を可能にする技術です。これによりルールベース*では検出が難しい行動も検出可能になります。

※ルールベースの行動検出は、検出したい行動を事前にルールで規定する必要がある。

■特許取得の背景

ACESは、建設・製造・介護の現場や店舗をはじめとしたリアル空間における、ヒトの行動や状態をデジタル化する技術を保有しています。これまでも、特定の行動をAIで検出し、安全判定や作業チェック、興味・関心状態の検出を行ってきました。しかし、従来の検出手法では、

- ・ルールベースで行動を認識する場合「ふらつく」などの数値的に定義が難しい行動はルールベースで汎用的に検出することが難しい

- ・深層学習を用いて行動を認識する場合、一般に認識したい行動のデータが大量に必要であり、多大な収集コストを要する

といった課題がありました。

そこで、大規模モデルを用いて検出したい行動と関連するテキスト(プロンプト)を与えることで、汎用的な行動検出を可能にする行動検知技術を開発し、特許を取得しました。

■特許の概要

今回特許取得した技術は、ルールベースでの定義づけが難しい「ふらつき」「つまづき」などの行動に関連するテキスト(プロンプト)を入力することで、従来は検出困難だった行動の検出を可能にする技術です。

これまでの一般的な手法では、背景で述べたような課題がありましたが、大規模動画分類モデルが獲得している言語と動画の概念的な対応関係を活用することで、一般的な深層学習モデルで行動を認識する場合よりも、少数のデータでの学習で行動を認識でき動作のばらつきにも対応できるようになりました。

この技術を活用し、建設・製造・介護をはじめ安全な労働環境が課題となっている領域でより高い精度で行動検出が行えるよう、現場適用に向けた開発を進めてまいります。



■今後の展望について

すでに電源開発株式会社と、画像処理AI技術を用いた「次世代の安全管理システム」構築に向けた取り組みの一貫で本技術に関する検証を実施しています。技術検証の結果、ルールベースでは検出が難しかった行動も、本技術を用いることで検出可能になりました。

ACESは引き続き労働災害リスクの軽減と安全性向上を目指し、建設・製造・介護現場のデジタル化を推進いたします。

プロジェクト詳細記事

<https://prtimes.jp/story/detail/zrEP1RSL6ox>

■特許について

特許番号：特許第7409731号(P7409731)

発明の名称：テキスト動画分類モデルを用いた事象判定方法、判定装置、及び判定プログラム

特許権者：

【識別番号】 520008533

【氏名又は名称】 株式会社 A C E S

(参考) 感情や属性を考慮した機微な動き方のモーション生成をAIで実現

バンダイナムコ様とモーションに対して別のモーションの性別・感情などの特徴を適用し、豊富な種類のモーションを生成する技術の研究開発を成功させデータセット販売を事業化

モーションスタイル変換の適用例

コンテンツ

歩き

標準



スタイル

歩き

xx



アウトプット

歩き

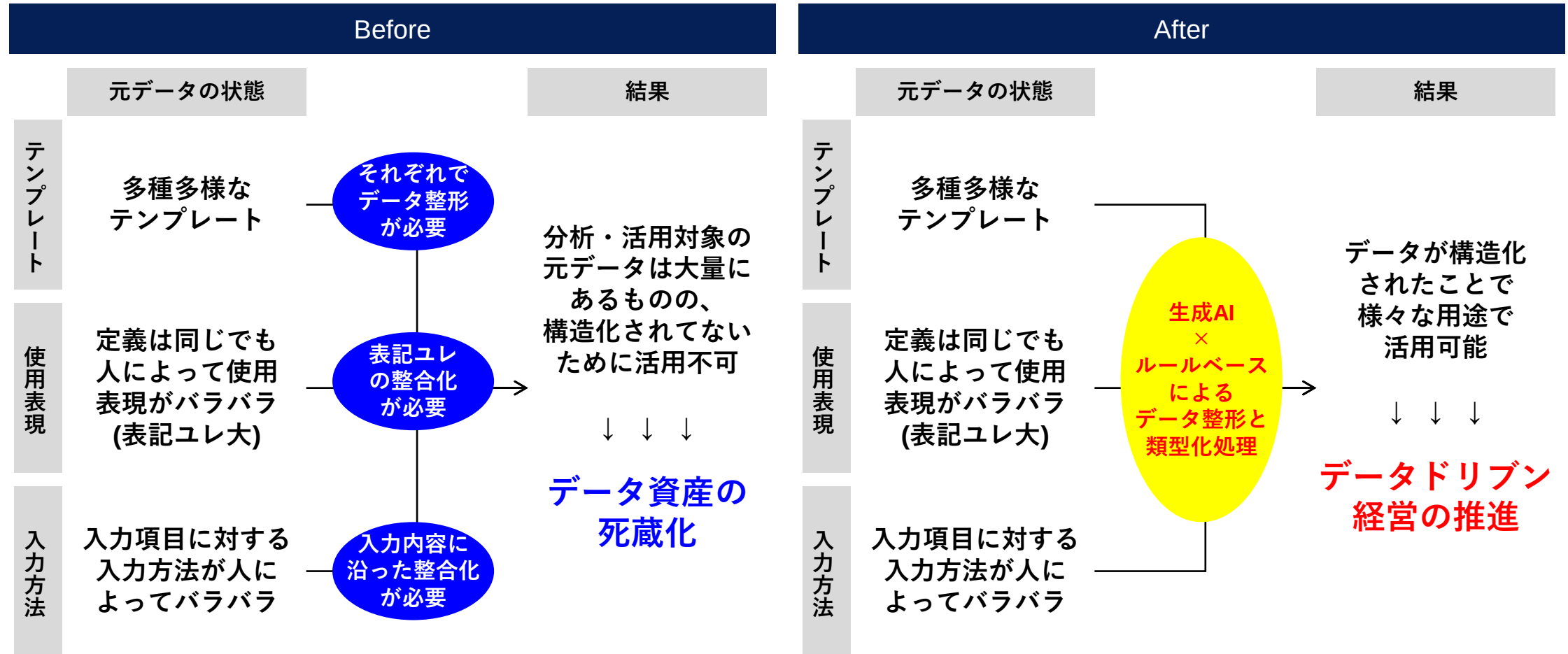
xx

	標準	男性	女性	元気	疲労	子供	老人
変換結果							
理想的な変換結果							

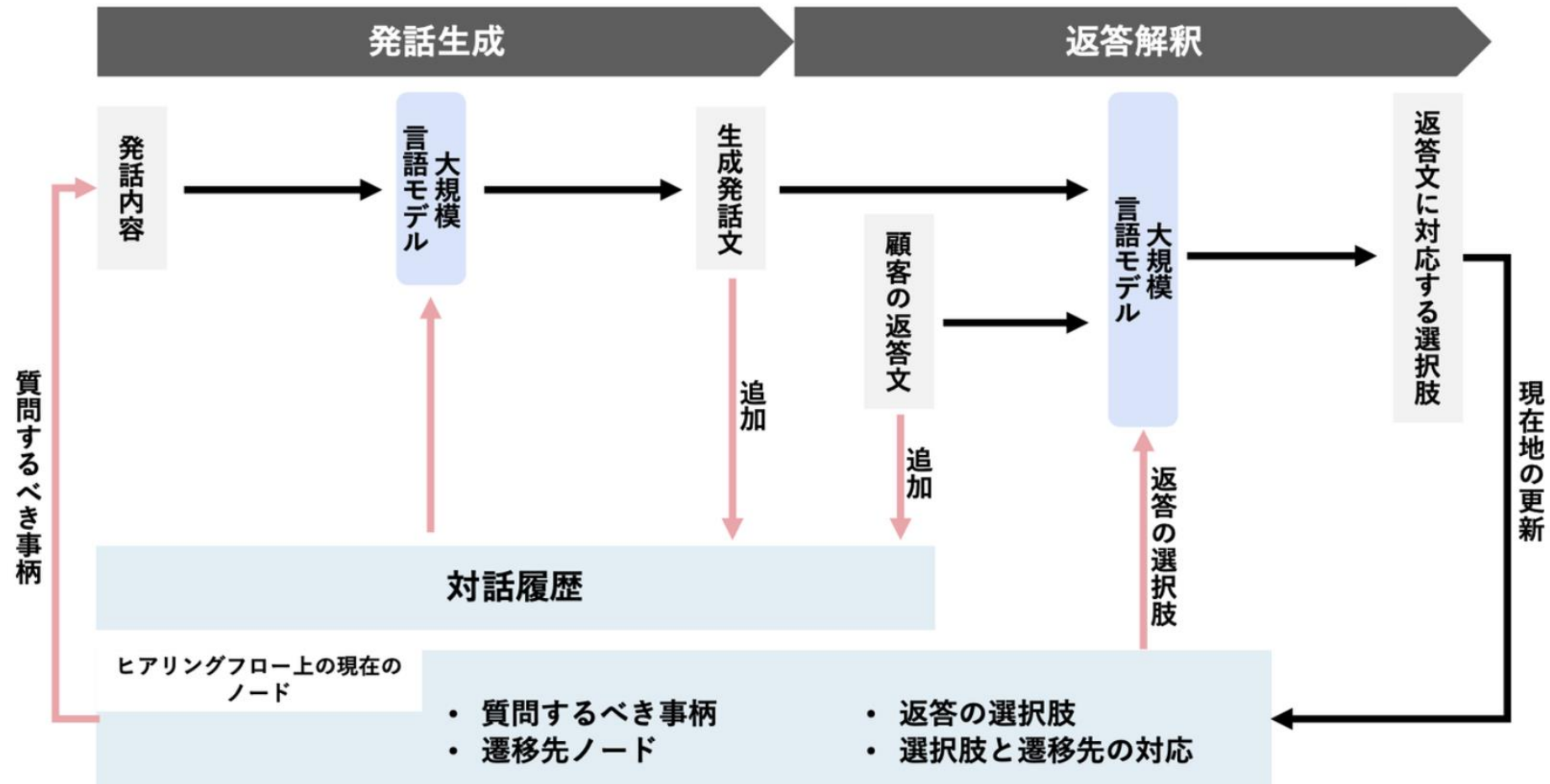
標準の歩くモーションに対して、特徴(男性、女性、元気、疲労、子供、老人)を適用した結果、質の高いモーションの生成に成功しています

(参考)非定型・非構造データの構造化による経営モニタリング強化

元データが非定型・非構造であるが故に活用できなかった重要データを、汎用的な処理が可能な生成AIとルールベースを組み合わせることで構造化処理。経営モニタリングが活用可能な状態に



(参考) ヒアリングフロー自動生成 AI

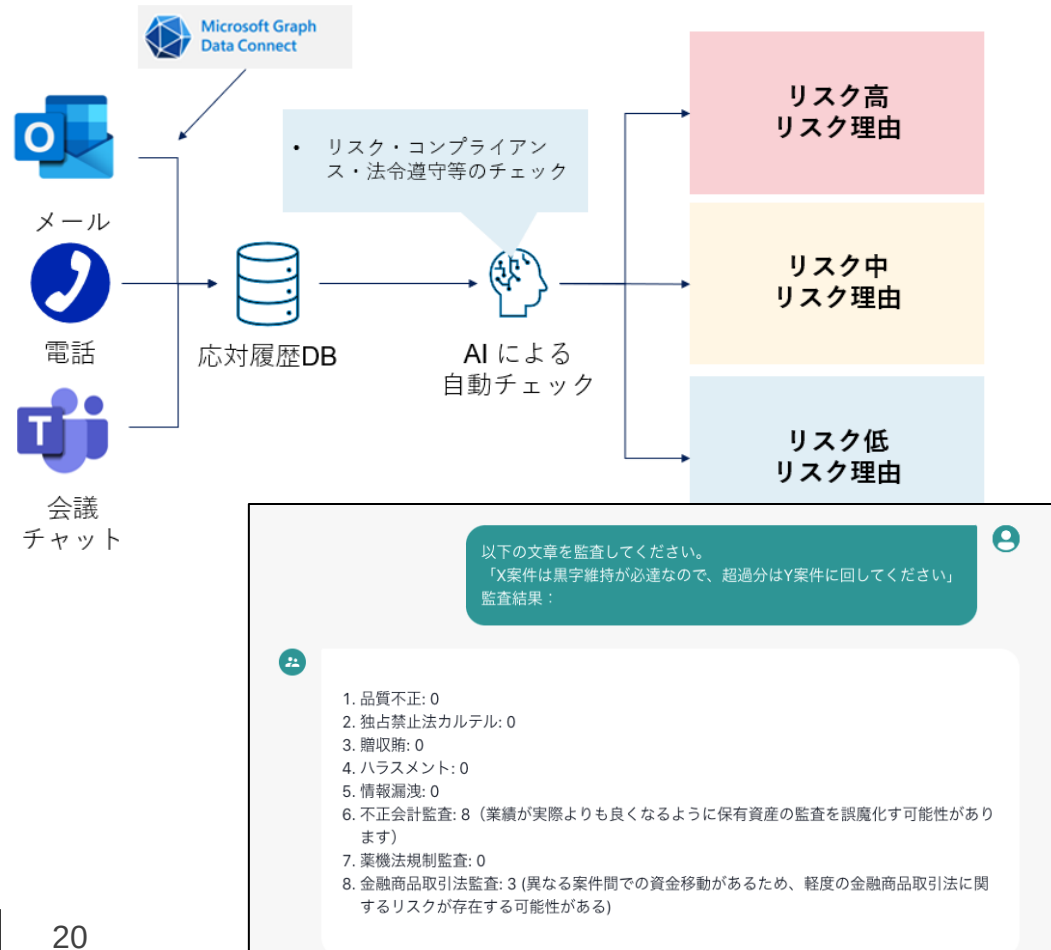


ヒアリングフローに基づきながら、前後の文脈を考慮した自然な発話と返答の意図の解釈が可能

(参考) セキュリティ管理 AI

メール・チャット・架電のコンプラチェックAI

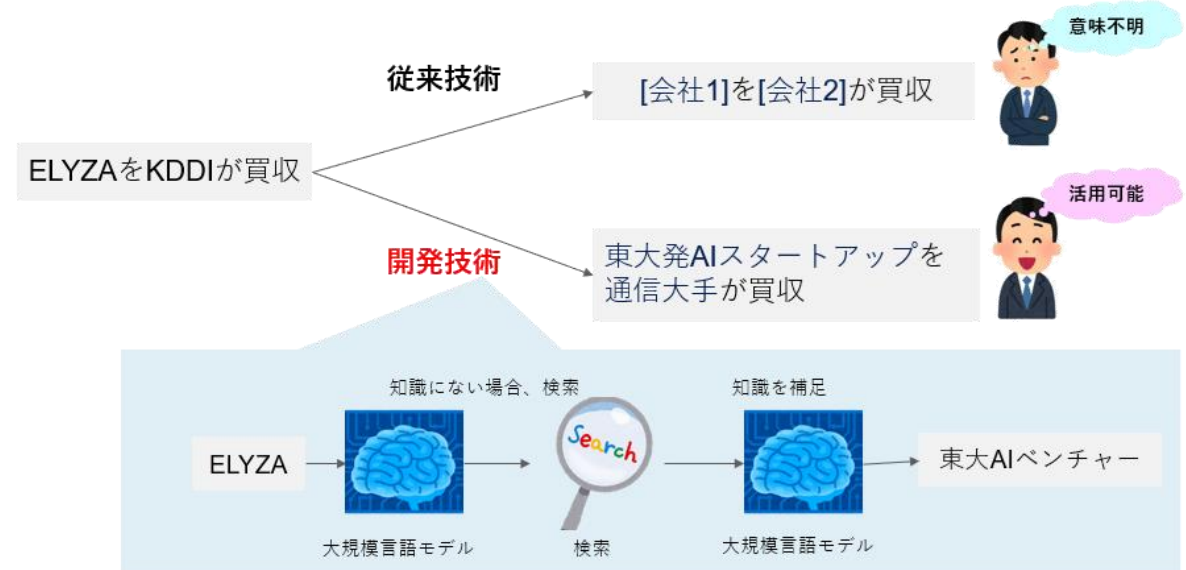
コミュニケーション情報の中からリスクの高い情報を検出し、検出理由とともにリスクレベルを自動的に分類表示



秘匿情報マスキングAI ※特許出願済

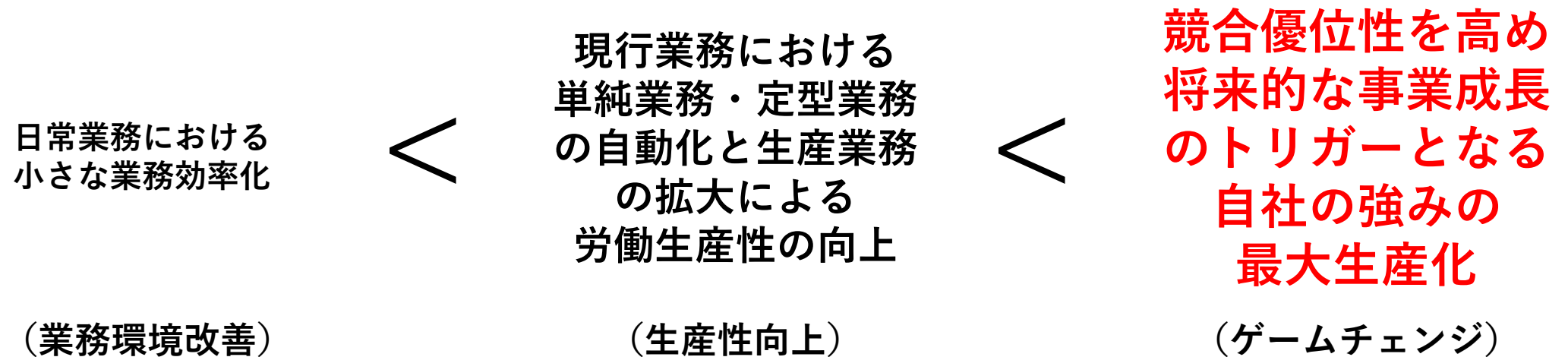
秘匿性の高い情報を、一定の情報量を保ったまま秘匿性の低い情報に変換するAIを研究開発中

データの安全なクラウド保存への活用や、情報抽象化の技術の名寄・タグ付への応用も可能



生成AI活用において基盤とすべき考え方

生成AIの登場によりAI活用が民主化したことで、小規模改善では競争力には差がつかずROI成立は難。
ファーストペンギンとなり 自社の強みを活かしたゲームチェンジの志向がROI・企業価値UPに繋がる



重要度
/ROI



ユースケース選定

第1要素(前提)

事業的に必要不可欠
で将来のコアコンピ
タンスやレバレッジ
ファクターとなる
ビジネスプロセスで
ある

e.g.)

- ✓ 取り組めば、売上が○倍・○億UPする可能性がある
- ✓ 取り組まず競合に先を越されると、売上を大きく失う可能性がある

第2要素

進め方・ROI設計/評価の考え方

【進め方】

【ROI設計/評価の考え方】

ユースケース選定

第1要素(前提)

事業的に必要不可欠で将来のコアコンピタンスやレバレッジファクターとなるビジネスプロセスである

e.g.)

- ✓ 取り組めば、売上が○倍・○億UPする可能性がある
- ✓ 取り組まず競合に先を越されると、売上を大きく失う可能性がある

第2要素

繰り返し行われている

(日々頻度高く繰り返し人手の処理で行われている)

社内にデータ・ノウハウがあり活用している

(社内のデータ・ノウハウを用いて業務を行っている)

特定の経験者(ベテラン・管理職)に偏っている

(特定の経験者の処理量が全体の生産量を左右している)

人によってバラツキがある

(人により判断・対応が異なり後工程への影響が大きい)

ビジネスプロセス・業務プロセスが多層構造

(工程・部署が複数あり調整・完結までに時間がかかる)

活用価値はあるが、人手で処理できず放置状態

(1処理は短時間の単純作業だが大量にあるため未着手状態)

重要度高いため教育・チェックが行われている

(教育・チェックの時間が発生し安定化まで時間を要する)

進め方・ROI設計/評価の考え方

【進め方】

【ROI設計/評価の考え方】

ユースケース選定

第1要素(前提)

事業的に必要不可欠で将来のコアコンピタンスやレバレッジファクターとなるビジネスプロセスである

e.g.)

✓ 取り組めば、売上が○倍・○億UPする可能性がある

✓ 取り組まず競合に先を越されると、売上を大きく失う可能性がある

第2要素

繰り返し行われている

(日々頻度高く繰り返し人手の処理で行われている)

社内にデータ・ノウハウがあり活用している

(社内のデータ・ノウハウを用いて業務を行っている)

特定の経験者(ベテラン・管理職)に偏っている

(特定の経験者の処理量が全体の生産量を左右している)

人によってバラツキがある

(人により判断・対応が異なり後工程への影響が大きい)

ビジネスプロセス・業務プロセスが多層構造

(工程・部署が複数あり調整・完結までに時間がかかる)

活用価値はあるが、人手で処理できず放置状態

(1処理は短時間の単純作業だが大量にあるため未着手状態)

重要度高いため教育・チェックが行われている

(教育・チェックの時間が発生し安定化まで時間を要する)

進め方・ROI設計/評価の考え方

【進め方】

- ① 将来的な競争優位性の構築と考えると成長戦略投資として経営判断する
- ② 最初から大きな理想像は実現性低下とコスト膨張となるため求めない
- ③ 対象業務をAIシフトする上で必要なデータ・ノウハウを準備する
- ④ 推進PJチームと対象業務のエキスパートをアサインする
- ⑤ 柔軟性持ってアジャイルで進め検証・改善を重ねて実用性を高めていく

【ROI設計/評価の考え方】

ユースケース選定

第1要素(前提)

事業的に必要不可欠で将来のコアコンピタンスやレバレッジファクターとなるビジネスプロセスである

e.g.)

✓ 取り組めば、売上が○倍・○億UPする可能性がある

✓ 取り組まず競合に先を越されると、売上を大きく失う可能性がある

第2要素

繰り返し行われている

(日々頻度高く繰り返し人手の処理で行われている)

社内にデータ・ノウハウがあり活用している

(社内のデータ・ノウハウを用いて業務を行っている)

特定の経験者(ベテラン・管理職)に偏っている

(特定の経験者の処理量が全体の生産量を左右している)

人によってバラツキがある

(人により判断・対応が異なり後工程への影響が大きい)

ビジネスプロセス・業務プロセスが多層構造

(工程・部署が複数あり調整・完結までに時間がかかる)

活用価値はあるが、人手で処理できず放置状態

(1処理は短時間の単純作業だが大量にあるため未着手状態)

重要度高いため教育・チェックが行われている

(教育・チェックの時間が発生し安定化まで時間を要する)

進め方・ROI設計/評価の考え方

【進め方】

- ① 将来的な競争優位性の構築と考えると成長戦略投資として経営判断する
- ② 最初から大きな理想像は実現性低下とコスト膨張となるため求めない
- ③ 対象業務をAIシフトする上で必要なデータ・ノウハウを準備する
- ④ 推進PJチームと対象業務のエキスパートをアサインする
- ⑤ 柔軟性持ってアジャイルで進め検証・改善を重ねて実用性を高めていく

【ROI設計/評価の考え方】

(観点①)削減した時間に基づく時間価値計算はしない

～雇用は削減できないことから、財務観点での改善効果はほぼない

(観点②)創出価値ベースで考える

～業務効率化などで創出した時間で何を生み出したかが労働生産性の向上

(参考)成果創出に繋げるAIトランスフォーメーションの進め方 全体像

ユースケース選定

第1要素(前提)

事業的に必要不可欠で将来のコアコンピタンスやレバレッジファクターとなるビジネスプロセスである

e.g.)

✓ 取り組めば、売上が○倍・○億UPする可能性がある

✓ 取り組まず競合に先を越されると、売上を大きく失う可能性がある

第2要素

繰り返し行われている

(日々頻度高く繰り返し人手の処理で行われている)

社内にデータ・ノウハウがあり活用している

(社内のデータ・ノウハウを用いて業務を行っている)

特定の経験者(ベテラン・管理職)に偏っている

(特定の経験者の処理量が全体の生産量を左右している)

人によってバラツキがある

(人により判断・対応が異なり後工程への影響が大きい)

ビジネスプロセス・業務プロセスが多層構造

(工程・部署が複数あり調整・完結までに時間がかかる)

活用価値はあるが、人手で処理できず放置状態

(1処理は短時間の単純作業だが大量にあるため未着手状態)

重要度高いため教育・チェックが行われている

(教育・チェックの時間が発生し安定化まで時間を要する)

進め方・ROI設計/評価の考え方

【進め方】

- ① 将来的な競争優位性の構築と考えると成長戦略投資として経営判断する
- ② 最初から大きな理想像は実現性低下とコスト膨張となるため求めない
- ③ 対象業務をAIシフトする上で必要なデータ・ノウハウを準備する
- ④ 推進PJチームと対象業務のエキスパートをアサインする
- ⑤ 柔軟性持ってアジャイルで進め検証・改善を重ねて実用性を高めていく

【ROI設計/評価の考え方】

(観点①)削減した時間に基づく時間価値計算はしない

～雇用は削減できないことから、財務観点での改善効果はほぼない

(観点②)創出価値ベースで考える

～業務効率化などで創出した時間で何を生み出したかが労働生産性の向上

生成AI導入・活用上でよく頂くご相談

様々な業界において生成AI導入・活用に関するご支援を提供しております。以下のような課題・お悩みで導入・活用が進んでないということでしたら、ご支援可能ですのでご相談ください。

- ✓ 生成AI活用の環境を全社的に整えたが[利用率が低い・一部のユーザに固定化](#)している
- ✓ [社内ドキュメントを参照できる環境を整えたが精度が上がらず、改善の取組みも妥当であるのか、評価ができず滞って](#)しまっている
- ✓ 生成AI活用に関するニーズは多く出るが、[どのテーマから取り組むべきかがわからない](#)
(ROIが合わないことへの懸念、技術的な実現性が不透明など)
- ✓ 生成AI活用ニーズに対して、[業務プロセスを変えるべきか、AIを活用するべきか、両方取り組むべきか判断することができない](#)
- ✓ 生成AIを活用する上で、[検証から実用までの「あるべき/最速の進め方や評価の仕方」がわからない](#)
- ✓ [データの整備がボトルネック](#)となって、[ユースケースの実現が遅々として進まない](#)



(会社ホームページ) <https://acesinc.co.jp/>

(イメージデモ動画) <https://www.youtube.com/@acesinc.9980/videos>

(お問合せフォーム) <https://acesinc.co.jp/contact>

※大変恐縮ながら法人様のみのお取引とさせて頂いております